

教養コース ④ 国際社会学

混迷するアメリカの政治と外交をどう読むか

第1回

# トランプ大統領誕生の 社会的背景とトランプ氏の個性

一講師 五味 俊樹氏

大東文化大学名誉教授

東京国際大学特任教授

日 時 8月29日(土) 10:00~12:00

会 場 鶴瀬公民館第3集会室

講師名 五味 俊樹氏 大東文化大学名誉教授  
東京国際大学特任教授

受講生数 22名

## 第1回 トランプ大統領誕生の社会的背景とトランプ氏の個性

先ず自己紹介で富士見市と同名の富士見町(長野県)の出身、五味という姓は珍しくない。

本講座の予定では、第3回までトランプ政権の誕生を中心に中国外交を読み解く。

さらに最終回で、今後の中国・習近平国家主席との外交関係をどう考えるかまで講義内容としたいとお話があった。

今回は2016年の大統領選で民主党のヒラリー・クリントンに対し共和党の泡沫候補といわれていたトランプが何故勝利したのか。

日本のメディア関係者では、木村太郎氏が唯一トランプ勝利を明言し応援していた。

### 1. トランプ氏が勝利したのはなぜか

- ① アメリカ特に中南部の社会的な風土 トランプの発信するツイッターで情報を得る40%前後の熱狂的な国民支持層
- ② 大統領選、選挙制度がもたらした…州ごとに割り当てられる選挙人を制する候補者



が当選する仕組み。

③ トランプ政権の評価を（暫定的）キーワードで表す

- a) 反知性主義
- b) ポピュリズム
- c) ツイッター政治
- d) ネイティヴィズム
- e) ショーヴィニズム
- f) 公益の軽視と私益の重視

2. トランプ氏の略歴、個性

- ・ 出身階層
- ・ 宗教
- ・ 倫理観
- ・ 学歴
- ・ 実業歴
- ・ 私生活



3. 2016年大統領選に於いてトランプ氏が当選した理由

(1) トランプ氏が掲げたスローガン

再び、偉大なアメリカへ、アメリカ第一主義…アメリカ社会で取り残された人々の琴線に触れ支持拡大。スローガンそのものは独創的ではない。

(2) 勝者総取りというマジック

- ・ 選挙人票と一般投票数の比較で、クリントン氏が票差で230万票多かったが選挙人票で負けて生かすことができなかった。
- ・ 接戦州での勝利

トランプ氏が、かつての五大湖周辺の工業地帯がある中部の州すべて勝利した

(3) トランプ氏が狙った票田とその戦術

トランプ氏の選挙戦での暴言、放言、過激発言、エンターテイメント調のパフォーマンス等がある特定の人々の心を捉えた。

- a) 既存の低所得者層や失業者（とりわけ白人）の不満のはけ口（不法移民の排斥、異教徒（とりわけムスリム）の排斥、排外主義を増幅。
- b) 反知性主義  
知性偏重主義、学歴偏重への強い嫌悪感  
権力の中核（ワシントン、DC）やウォール街への反発
- c) 大都市対田舎  
2016年のアメリカで流行っていた言葉 hillbilly（広く田舎者が大都市に人々へのある種の反発として使われた。トランプ氏への支持票
- d) Rust Belt（かつての工業労働者が失業し鉄さびの工業地帯）トランプ氏の経営手腕に期待 労働組合・民主党支持者の切り崩し
- e) 白人対非白人

人種差別発言で差別感情をあおる

f) 宗教的保守対宗教的リベラル

中絶をめぐる対立、性的マイノリティ（LGBTQ）バイブルベルトのすべての州をトランプ氏が獲得

g) SNSの駆使、新聞など読まない層を射程にする

h) 国際主義から二国間主義

I) 自由貿易から保護貿易

J) 国際協調主義から軍事優先主義

#### 4. 就任後の主な国内政策とその履行状況

政策の大半は、大統領令という手法を用いている

(1) 外国テロリストのアメリカ入国から国家の保護 90日間停止、難民は受け入れ120日間停止

(2) メキシコ国境の壁建設 3マイル程度

(3) 不法移民の取り締まり強化

(4) 減税による景気浮揚策

議会と協力して子ども2人の中間層家族には35%の減税、法人税率を35から21%へ引き下げ

(5) 医療保険制度改革の撤廃 「オバマケア」撤廃の大統領令の発出  
現行制度の紹介

(6) 中絶問題 基本的には pro-life の立場

(7) 銃規制

全米ライフル協会（NRA）はトランプ氏の支持基盤



## 5. 米朝関係、米中関係を除く主な対外政策

(1) 対ロシア プーチン政権に対して総じて「及び腰」

(2) 対中東地域

- ① 対イスラエル 2017年12月7日エレサレムをイスラエルの首都と承認  
2018年5月14日イスラエル米大使館をエレサレムに移転  
2019年3月25日ゴラン高原を占領するイスラエルの主権を承認
- ② 対「イスラム国 (IS)」米軍の奇襲作戦で殺害、今後も IS の掃討作戦の堅持表明
- ③ 対シリア 2019年10月連邦議会、同盟国の反対を押し切り、米軍のシリア北部から撤退、クルド人を見捨てる。
- ④ 対イラン 2018年5月8日イラン核合意から離脱表明、経済制裁を科す
- ⑤ 対アラブ首長国連邦 国交正常化の仲介役
- (3) 対アフガニスタン「ドーハ合意」米駐留軍の撤退開始を表明
- (4) 対「国連気候変動枠組条約締結国会議 (COP)」  
2017年6月1日「パリ協定」からの離脱表明  
2019年11月4日国連に対し、離脱のための正式な手続きを開始した旨の通告
- (5) 対「北米自由貿易協定 (NAFTA)」産業保護政策の一環として見直しを掲げた  
就任後、交渉の結果、新協定「アメリカ・メキシコカナダ協定 (USMC)」の締結成功
- (6) 対 T P P (環太平洋パートナーシップ協定)  
2017年1月23日環太平洋連携協定から離脱する大統領に署名した「アメリカ第一主義」に基づいて多国間主義から二国間主義へ転換
- (7) 対 WHO (世界保健機関)  
新型コロナウイルスの対応でWHOが中国寄りであることを不服として、2021年7月6日をもってWHOを脱退すると国連に通告した。

アメリカで19世紀前半から中旬にみられた、WASP 人種はアングロサクソン、宗教はプロテスタント、イギリス的思考方、ネイティブスの動きに類似、生粋のアメリカ人に価値を置く。

アメリカ南部は、有色移民に対し厳しい見方を取り勝ち。

排外主義の動きに連動して、K. K. K. を彷彿とさせるような ALT (ERNAIVE) Right 従来の保守に代わる保守という勢力が「トランプ現象」を増幅させたのでは。

### 質疑

トランプ氏の脱税問題 本人の周辺を先行して調査、起訴は難しい。  
政治の動向によってどうなるのか先行き不明。

報告者 加藤久美子